

組合員とのコミュニケーションを図るためにどのような工夫をしていますか？

Q

森林組合の組合長となり2年目になります。正直、林業は門外漢で長年、教育関係の世界に携わってききました。森林組合に来て一番感じているのは、組合と組合員さんとのコミュニケーションの希薄さです。当地はあまり林業が盛んではない地域とはいえ、組合の大事な顧客であるはずの組合員さんとの接点が少ないと感じています。さらに、今お付き合いのある組合員さんの多くは高齢であり、その後継者の獲得も急ぐべきだと考えております。これまで組合員さんとのコミュニケーションを図る機会といえば、総会と年に1回の広報誌発行ですが、マンネリ化してあまり効果が期待できません。そこで貴組合では、組合員さんとのコミュニケーションを図るためにどのような工夫をしているか、具体的にお聞かせいただければ幸いです。

(森林組合組合長)

A

■認知度を高める発信を増やす

最近「林家」というと、「自伐林家」という形で取り上げられていますが、林家を「はやしや」などと読んでしまう人が多いのではないのでしょうか。そのくらい林業から関心がなくなり、組合員の多くは森林所有者という位置付けなのが、現状ではないでしょうか。

それに加えて組合が広域合併し、かつての1村1組合だった頃のような「おらが組合」という思いは薄れてきていると思います。

当組合も合併後は、相談にあるように、たまに発行する広報誌と賦課金徴収くらいが組合員との接点だけとなってしまいました。そこで組合の認知度を高めるため、組合が行っていることを、できるだけ多く発信していくこととしました。

そして組合員に対しては、組合員

し組合をアピールしています。

⑤ ホームページの開設

高齢の組合員が多いので、直接組合員が利用していることは少ないと思いますが、組合情報を可能な限り公開して、多くの方に信頼される組合を目指しています。

また、できるだけ早く公開することを心がけています。

なお、組合員向けには組合員の届出関係について様式を掲載し、組合事務所に来所しなくても簡単に入手できるようにしています。

■組合員のための組合となる

① 多くの組合員が困っていることは、自分の山が分からないということです。これに応えるために森林境界の明確化を行いました。これまでに、その面積は

が望んでいることは何かを考え、それに応えられる組合になることを目指して様々な取り組みを行ってきました。

こうした取り組みにより、希薄だった組合員とのつながりも大きく変化し、年々異動の届出が多くなり、今年度は400件以上の届出がありました。

当組合が行った取り組みは以下のようなことです。

■組合をアピールする

① 新聞等への情報提供

行事・イベント等事あるごとにローカル紙等に情報を提供しています。特に記者や関係者と知り合いになることで、メールで常々情報提供をするようにしています。

全てが取り上げられることはありませんが、中には1面に大

きく取り上げていただくこともあります。

② 広報誌の充実

定期的な発行ができていませんでしたので、定期的に年3回発行することとしました。また、誰もが気軽に見られて分かりやすい紙面とするため、全面カラー印刷とし、写真を多く文字を少なくし、文章は簡潔に書くようにしています。

そして、地域の山や、山で行われたイベントなど身近な情報を掲載するようにしています。

③ テレビ・ラジオへの出演

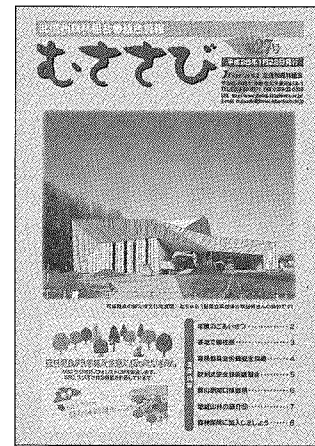
機会があれば率先してテレビやラジオ番組に出演し、組合をアピールしました。

④ 行事・イベントへの協力

県市町村の行事やイベントはもとより、地域や学校などの行事やイベントにも積極的に協力

4000 ha以上となり、組合のGISの中で管理しています。組合員全ての山林を行うことが目標であり、完結するのは遠い先のことですが、こうした取り組みこそ組合員のための組合となることだと思います。

そして組合員の所有山林を明確にすることにより、後継者が組合員として組合に残ることになっていると思います。



北信州森林組合の広報誌（上）とホームページ（下）。それぞれ「第50回林業関係広報コンクール」にも応募している

② 広域合併すると組合員数が膨大となり、その事務量も増加します。当組合も6000人近い組合員がいますので、たいへんな作業になります。これをスムーズに行い出資配当ができるようにと、組合員台帳のシステム化などを行いました。これにより事務量が格段に減少するとともに、出資配当も行えるように

なりましたので、個々の組合員への配当額は少額ですが、組合員の組合への思いは変化しつつあると思います。

このような取り組みにより、組合員とのつながりも大きく変化はしましたが、地方の人口減少による影響は森林組合にも及んでおり、一人暮らしの高齢者である組合員が多く存在し、その跡取りがいないとか、都会に出ていて「山などどうでもよい」ということも多く、脱退となる事案も年々増加しているのが現実です。

こうしたことがあるからこそ、もっと取り組みを進めていかなければならないと思っています。

北信州森林組合 総務課長
田中 忠

※このコーナーは、複数の回答者が交代でお答えします。みなさまからの相談をお待ちしております。